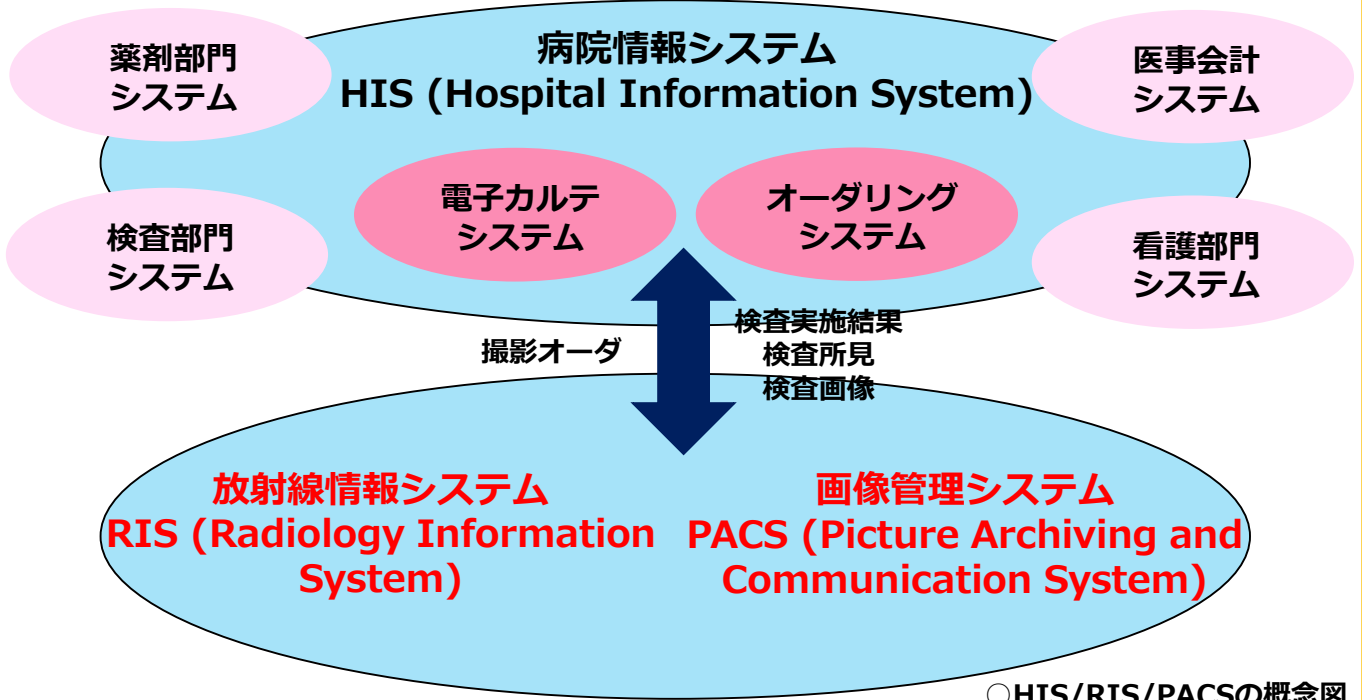


# 医療情報システムってなあに？



医療全般における医療情報システムに関して診療放射線技師が求められるもの、及び担当する医療情報業務って何だろう？

## Q1 医療情報システム管理業務って何するの？



放射線部門における医療情報システム管理業務は、主に医用画像情報を対象とし、放射線部門(RIS・PACS・モダリティなど)と他部門(HIS・検査システムなど)を繋ぎ、画像情報の連携を目指すものであり、放射線技師の業務と深く結びついています。

医療情報業務に携わる放射線技師は電子カルテやオーダリングなどのシステム/マスタを作成、管理したり、トラブル解決をする技術者でもあります。

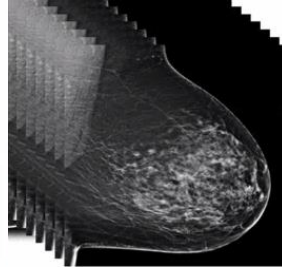
しかしすべての医療スタッフがITに詳しくシステムを使いこなせるわけではありません。純粋な情報管理部門専属のスタッフ(SE/システムエンジニア)は医用画像に関しては知識が乏しい面もあります。そのため**放射線部門システムに関して医療の知識と情報スキルを合わせ持った放射線技師が求められています。**

## Q2 どうして医療情報システムに精通した診療放射線技師が必要なの？

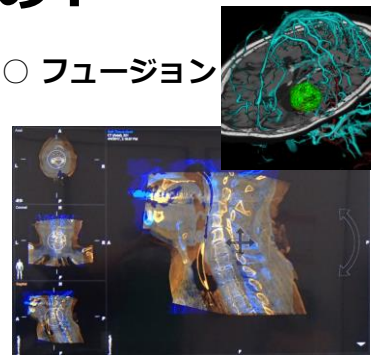
○ 256列 CT装置



○ マンモグラフィ トモシンセシス



○ フュージョン



例えばCT装置は多列化が進み、マンモグラフィやX線透視はトモシンセシスの技術が導入され、血管撮影では3D画像を含めた各種画像処理が手技中に行えるようになるなど、技術の進化に伴い画像情報そのものも複雑化の一途を辿り、医療情報業務の視点からその対応は常に考慮しなければなりません。それは**放射線部門が関連する情報の停滞は診療へ悪影響を及ぼすことにつながるからです。**

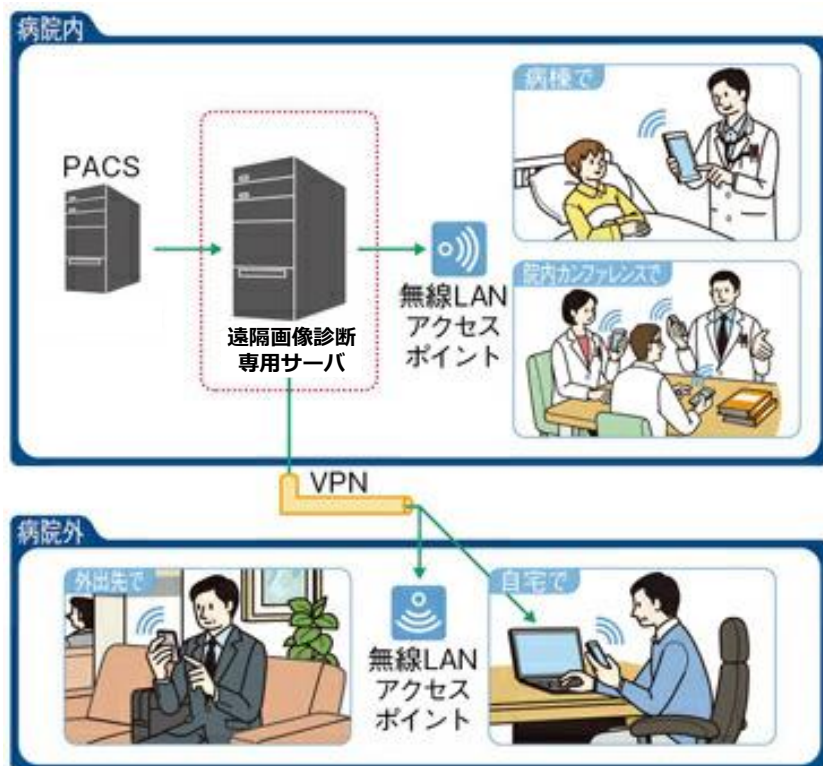
その他、ネットワークを含めたシステム障害時の対応やマスタの作成や管理、他部門やベンダーとの調整など、システム管理を含めた情報管理に関わる業務は多岐にわたります。

放射線技師の業務と情報システム管理の業務を兼任する者の実務には、放射線技師としての医療経験も活かされています。医療職をベースに現場の仕事内容やワークフローを理解した上でシステムに携わることができる点は情報管理職にはない利点であり、安全で確実な情報共有の環境整備を実現できます。

# 遠隔画像診断補助システムの導入



医療現場でもタブレットなどのさまざまな端末を利用し、院内外問わずさまざまなシーンで診断・治療をサポートします。



○ タブレット端末による画像表示

## ○ 遠隔画像診断補助システムの運用イメージ

PACS (画像管理システム)に蓄えられた医用画像を、機種やOSを問わずさまざまな端末から参照できるシステムです。専用アプリのインストールを必要としないシンクライアント方式の採用により、ブラウザからログインするだけの簡単な操作でCTなどの医療画像を表示することができます。また、万一の端末紛失でも個人情報を流出させない仕組み(端末側に個人情報を保存しない)や、第三者ののぞき見を防止する匿名表示機能、IPSec-VPNや電子証明書の利用など、院外での利用を想定したセキュリティ対策を施しています。



## ○ セキュアネットワークサービス

この遠隔画像診断補助システムを利用することで、場所を選ばず画像参照ができるようになります。病棟回診時や、ベッドサイドにおける患者への治療方針説明での利用、またカンファレンスや勉強会を院内外問わず画像を見ながらできるようになり、検査画像の利用シーンが広がります。

